第 10 回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和８年 10 月 21 日（水）
午後５時 30 分～午後６時 30 分
会場：オンライン

次 第

１　開　会

２　挨　拶

３　新構成員紹介

４　報告事項

第９回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ　等

５　会議事項

校地検討部会報告

６　その他

７　閉　会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第１　県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第 138 条の４第３項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第２　懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

（１）学校像、教育方針等に関すること

（２）校地・施設・設備等に関すること

（３）管理運営等に関すること

（４）教育内容等に関すること

（５）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

（構成員）

第３　懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、ＰＴＡ、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

２　会議に座長を置く。

（開催期間）

第４　会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和２年 10 月 26 日から施行する。

岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会構成員名簿

（敬称略）※新構成員

○　座長

		氏名（座長○）	所属等	役職等
1	自治体	藤澤　　正	岡谷市	副市長
2		後藤　慎二	諏訪市	副市長
3		宮坂　　享	岡谷市教育委員会	教育長
4		三輪　晋一	諏訪市教育委員会	教育長
5		山田　典史	下諏訪町教育委員会	教育長
6	産業界	髙木　克彦	岡谷商工会議所	副会頭
7		白鳥　和美	諏訪商工会議所	副会頭
8	学識経験者	○市川　純章	公立諏訪東京理科大学	地域連携総合センター長
9	地域	※板花　伸也	セイコーエプソン株式会社人的資本・健康経営本部	総務部長
10		髙林　千幸	岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）	館長
11		山口　恭子	諏訪地域振興局	局長
12	同窓会	小松　　壮	（一社）岡谷工業高等学校同窓会	理事長
13		木村　明美	諏訪実業高等学校同窓会	副会長
14	定時制振興会	山田　幸男	定時制振興会	会長
15	ＰＴＡ	矢ケ﨑浩一郎	岡谷工業高等学校ＰＴＡ	ＰＴＡ会長
16		清水奈穂子	諏訪実業高等学校ＰＴＡ	ＰＴＡ会長
17		小口　　翼	岡谷市ＰＴＡ連合会　代表（長地小）	会長
18		長谷　亮祐	諏訪市ＰＴＡ連合会　代表（諏訪中）	会長
19	小中学校等関係者	阿部　恵二	諏訪小学校長会　代表　（四賀小）	四賀小学校長
20		牛越　雅紀	諏訪中学校長会　代表　（上諏訪中）	上諏訪中学校長
21		中島　勇吾	諏訪支援学校	校長
22	再編対象校	髙木将太郎	岡谷工業高等学校	生徒会長
23		蛭間聡一郎	岡谷工業高等学校	生徒会副会長
24		久保田弥生	岡谷工業高等学校	校長
25		清水　　哲	岡谷工業高等学校	教職員
26		小池　拓斗	諏訪実業高等学校	生徒会長
27		スズキヒロミ	諏訪実業高等学校	生徒会副会長
28		有賀　　浩	諏訪実業高等学校	校長
29		※松下　明世	諏訪実業高等学校	教職員

【事務局】

学校名	氏　名（役職等）	氏　名（役職等）
岡谷工業高等学校	（教頭）生田 憲克	
	（教諭）御子柴 久雄、見波 泰、松島翔、小池 作治、清水 哲	
諏訪実業高等学校	（全日制教頭）辻 隆秀、（定時制教頭）山本正和	
	（教諭）松下 明世、小川 淳子、児玉 澄香	

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	柳沢　勝美	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	宮嶋　直美	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	楯　　和弘	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	清水　史明	学びの改革支援課	指導主事

第９回　岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ

日　時	令和８年７月17日（金）17時15分～19時15分			
場　所	諏訪市役所　大会議室（５階）			
出　席 **(敬称略)**	藤澤正、後藤慎二、宮坂享、三輪晋一、山田典史、髙木克彦、白鳥和美、◎市川純章、 髙林千幸、※山口恭子、小松壮、木村明美、山田幸男、小口翼、長谷亮祐、 牛越雅紀、中島勇吾、髙木将太郎、蛭間聡一郎、久保田弥生、清水哲、小池拓斗、 スズキヒロミ、有賀浩、松下明世、以上25名（※はオンラインによる参加）			
欠　席 **(敬称略)**	宮坂和幸、矢ケ崎浩一郎、清水奈穂子、阿部恵二、以上４名		**傍　聴** **者**	５名　報道関係４社
事務局	岡谷工業高校	生田教頭、御子柴教諭、見波教諭、松島教諭、小池教諭、清水教諭		
	諏訪実業高校	辻教頭（全日制）、山本教頭（定時制）、松下教諭、小川教諭、児玉教諭		
当日資料	第９回懇話会資料（全日制、定時制、学びのイメージ案を含む）、座席図			

会議事項

（１）第８回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ

（２）校地検討部会報告

（３）再編実施基本計画（案）　学びのイメージに係る意見交換

（４）新校に向けた地域連携・学科連携の取組報告

意見交換　（概要）　　→事務局　⇒座長

（１）第８回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ　　質問意見なし　⇒承認

・懇話会のまとめについて、会終了後の早い時期に内容を確認したいという要望をいただいた。構成員にメールでまとめの案を送り、承認をいただいた後ホームページに掲載する。

（２）校地検討部会報告

〇基本方針　　質問意見なし　⇒承認

１ 現校地を活用することを原則とする。２ 校地を併用することは原則として検討しない。３ 校地検討会議および懇話会の意見交換を参考に、県教育委員会が校地を決定する。

〇校地選定の検討項目　質問意見なし　⇒承認

１ 校地、校舎に関わる環境、２ 通学環境、３ 学習活動を支える教育環境、の三つの大項目を設ける。今後、両校の校地の優位性を検討していきたい。

（３）再編実施基本計画（案）　学びのイメージに係る意見交換

〇定時制の学びのイメージ

・見出し「なりたい自分像」は生徒自身が決めるのではないか。育てる生徒像の方が良いのではないか。
→教員側の視点でなく生徒の視点から自分が目指す姿がイメージできるようにしたいため、引き続き表現を検討し再提案する。

・通信制との連携はどのような連携を考えているか。
→自分の学校にない科目を併修できる定通併修の仕組みの導入などを検討したい。

・通信制課程の南信地域の設置についてはどのように考えているか。→今後、検討していく段階である。

⇒学びのイメージは、新校が大切にする理念や価値観を共有し、教職員と生徒が目指す姿や育成したい生徒像の方向性を明確にするものとして位置づけていく。

〇全日制の学びのイメージ

（家庭科の学び）

・家庭科は衣食住、人生、生活設計のイメージがある。

・服飾分野だけでなくもう少し幅広くデザインを捉えたり、地域課題に取組んではどうか。

・「ものづくりを教育する」という表現には違和感がある。ものづくりそのものではなく、ものづくりを通じてどのような力や資質を育成するのかが伝わるとよい。また、新校ならではの特色や、従来からどのように変わるのかというメッセージが示されるとよい。

・技術者が求められていることは間違いないが、一方で社会や産業界では幅広い能力を備えた人材も必要としている。育成する対象を「技術者」に限定するのではなく、より幅広い人材像を示す表現がよいのではないか。

・就職を前提とした表現があるが、進学する生徒も増えていることを踏まえて、専門性を生かした進学先への接続や、進学後も専門的な学びを深めていける姿が示されるとよい。

・商業教育の物やサービスの価値や良さを伝えることを重視している点に特色があるのではないか。ＤＸなどの新しい視点を取り入れつつも、これまで大切にしてきた価値観や強みを継承していくことが重要であり、それらを言語化して示すとよい。

→各分野の学びの内容について、現在検討している段階であるため、いただいた意見を参考に検討する。また、表現についても伝わりやすくなるようにブラッシュアップする。

（4）新校に向けた地域連携・学科連携の取組報告

○（生徒への質問）それぞれの学校の学びの中で、どのような場面で楽しさや面白さを感じるか。

・自分たちで企画から運営まで考え、実践的に学べる諏実タウンは楽しく、充実している。

・ファッションショーでは、製図などを含めて自分たちで考えながら制作し、仲間と協力して取組めたことが良かった。また、生徒会活動を通して他学科の生徒と関わり、友達が増えた。

・高校では基礎的なことを学ぶため学べる内容には限界があるが、信州の名工について調べる課題研究では、より高いレベルの技術や技能を知ることができる点に楽しさを感じる。

・実習で取組むスターリングエンジンの製作は難しいが、仲間と相談し合いながら作っていくところが楽しい。また、コミュニケーションを取る機会にもなり、良い関係がつくれている。

○共学共創コンソーシアムは設立できているか。また設立されている場合どのような体制か。

→共学共創コンソーシアムについては、現時点で組織体制や運営方法が固まっているわけではない。今後、学校と地域が連携しながら、継続的な取組みを支える仕組みを構築していく考えである。教員の異動による影響も踏まえ、地域人材の参画により、学びの充実と継続性の確保を図っていきたい。

⇒学びのイメージは、取組みを細かく規定するものではなく、新校の方向性を共有するための拠りどころとなるものである。本日は、方向性を広く示す意見と、具体的な学びの内容についての意見をいただいた。 今後、事務局で学びの内容の検討を進める中で、さらにイメージが明確になっていくものと思われる。生徒にとって魅力があり、地域の方々も関わりやすい新校のイメージを掲げてスタートできると良いと考える。

また、構成員の皆様には、本日の議論を選出母体に持ち帰り、幅広く意見を伺っていただきたい。それらの意見も踏まえ、さらに検討を深めていきたい。

その他

【次回懇話会】　調整中

凡例 ： 確認済み 検討中

岡谷諏訪総合技術新校（仮称）再編実施基本計画（案）

1　再編統合対象校

諏訪実業高等学校（全日制・定時制）、岡谷工業高等学校（全日制）

2　募集開始（開校）年度

令和＿＿＿年度

3　活用する校地・校舎

（　　）

第１回～第５回校地検討会議　継続検討中

4　設置課程・学科及び想定する募集学級数

設置課程・大学科　了承（第８回懇話会）

全日制課程　工業科･商業科･家庭科　３学科あわせて（　　）学級

定時制程　普通科　（　　）学級

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

5　統合新校の学びのイメージ

別紙のとおり

第３回懇話会（R5.12.19）以降、継続検討中

6　施設整備

「再編実施基本計画（案）」策定スケジュール

再編実施基本計画（案）

新校の中身（学び）

第6,７回　学びのイメージ
第８回　学びのイメージ
第９回　学びのイメージ・設置課程 学科
　　地域・学科連携取組報告

新校が目指す姿

第４回　構成員提言①　生徒像　・学校像
第5回 構成員提言②　学びの柱

共通理解

・第１回　懇話会趣旨説明
・第2回　全国の先行事例
・第3回　2校の学び紹介

新しい学校の形

第９回　校地検討会議報告
　　（校地選定の基本方針、検討項目）

第１０回　校地検討会議報告
　　（岡谷諏訪総合技術新校の校地について）

第１１回～
・学びのイメージ　各学科の学びの具体
・活用する校地・校舎、募集開始（開校）年度
・想定する募集学級数

校地選定に係る基本方針

（１）現校地を活用することを原則とする。
（２）校地を併用することは原則として検討しない。
（３）校地検討会議及び岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会の意見交換を参考に、県教育委員会が校地を決定する。

校地選定に係る検討項目

岡谷諏訪総合技術新校(仮称)の校地を選定するにあたり、下記の項目について、校地検討会議及び岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会の意見交換を参考に、県教育委員会が、諏訪実業高校、岡谷工業高校の校地を検討し、決定するものとする。

１　校地・校舎に係る環境

検討項目（観点）	検討にあたっての考え方
学びを支える学習環境	○専門学科の学びと、学科間連携のための学習空間・施設を確保することができる校地が望ましい。定時制の施設は独立して設置することが望ましい。
部活動の活動場所	○活動場所が確保できる校地が望ましい。（第二グラウンド等の施設の活用の可否を含む。）
安全で安心な環境	○公共施設としての機能を考え、大規模な災害を想定し、より安全で安心な環境を整えることが望ましい。
近隣住民への影響	○学校での活動による騒音やほこり等、近隣住民への影響が少ない校地が望ましい。

２　通学環境

検討項目（観点）	検討にあたっての考え方
駅からの距離	○新校では、各地から生徒が集まることも想定し、駅から近い校地が望ましい。
通学状況・通学方法	○生徒が通学しやすい校地が望ましい。
通学路の状況	○通学時の安全が確保できる校地が望ましい。

３　学習活動を支える教育環境

検討項目（観点）	検討にあたっての考え方
他の学校との交流のしやすさ	○他の学校との連携や交流がしやすい校地が望ましい。
地域との交流のしやすさ	○地域の施設や企業と連携や交流がしやすい校地が望ましい。
周辺の学習環境の状況（自学、自習スペース）	○放課後の学習のための自習スペース等が使いやすい校地が望ましい。
隣接施設（公共施設等）の状況	○学校外の施設での活動を想定し、近隣の施設が使いやすい校地が望ましい。

岡谷諏訪総合技術新校（仮称）の校地について（案）

校地検討部会

1　校地選定に係る検討項目と検討状況

（1）校地・校舎に係る環境

検討項目(観点)及び考え方	意　見
学びを支える学習環境 ◇専門学科の学びと、学科間連携のための学習空間･施設を確保することができる校地が望ましい。定時制の施設は独立して設置することが望ましい。	○重量がある工業科の設備の移動コストと設置に係る地盤補強のコストを考えると、既に設備が設置され、地盤が安定している岡谷工業高校に優位性がある。 ○校舎の新しさや定時制の学びの場が確保されている点において諏訪実業高校に優位性がある。 ○地理的には、諏訪地域の中心に位置する点で諏訪実業高校は利点がある。 ○現在の教育内容を前提として校地を選定するのではなく、スポーツ、グローバル分野、美容分野など新たな学びの可能性も含めて検討する必要がある。 ○校地・施設と教育内容・カリキュラムは密接に関係しており、新たな学びや魅力ある教育活動の内容によって、ふさわしい校地も変わってくる。
部活動の活動場所 ◇活動場所が確保できる校地が望ましい。（第二グラウンド等の施設の活用の可否を含む。）	○スポーツも学校の魅力の一つであるため、第２グラウンドを有している岡谷工業高校に優位性がある。 ○諏訪実業高校周辺にも体育施設があり、それらを活用することによって対応することも考えられる。
安全で安心な環境 ◇公共施設としての機能を考え、大規模な災害を想定し、より安全で安心な環境を整えることが望ましい。	○地盤が安定している点で岡谷工業高校に優位性がある。 ○諏訪実業高校はハザードマップで浸水想定区域に位置していることに加え、地盤沈下が進行しているため校舎補修のための維持コストがかかる。 ○将来にわたる生徒の安全確保を重視すると岡谷工業高校の校地の方が適している。
近隣住民への影響 ◇学校での活動による騒音やほこり等、近隣住民への影響が少ない校地が望ましい。	○近隣住民から学校に寄せられたご意見を比較した結果大きな差はない。

（2）通学環境

検討項目(観点)及び考え方	意　見
駅からの距離 ◇新校では、各地から生徒が集まることも想定し、駅から近い校地が望ましい。	○駅からの距離に大きな差はない。
通学状況・通学方法 ◇生徒が通学しやすい校地が望ましい。	○どちらの校地も通学圏内に収まっており、通学のしやすさに大きな差はない。 ○定時制の生徒ために駐車スペースの確保が必要である。 ○諏訪地域の中心という観点では諏訪市に利点があり、隣接通学区からの通学のしやすさという観点では岡谷市に利点があるため、視点によって評価は異なる。 ○旧第７通学区の中心という観点や県境や隣接県からの通学も考慮すると、上諏訪駅を利用する方に利点がある。
通学路の状況 ◇通学時の安全が確保できる校地が望ましい。	○岡谷工業高校は、駅から上り坂で混雑した通学路であるが、諏訪実業高校は平坦で、賑わいがある商店街を通る通学路であるため、諏訪実業高校に利点がある。 ○両校とも市街地に位置しており大きな差はない。

(3) 学習活動を支える教育環境

検討項目(観点))及び考え方	意　見
他の学校との交流のしやすさ ◇他の学校との連携や交流がしやすい校地が望ましい。	○どちらの校地であっても、地域に根差した形で交流が生まれる。
地域との交流のしやすさ ◇地域の施設や企業と連携や交流がしやすい校地が望ましい。	○交流を想定する相手によって交流のしやすさは異なるため、優位性の判断は難しい。 ○現状でも両校で地域連携は行われているため差はない。 ○諏訪実業高校は諏訪地域の中央に位置しており、地域の方が来校して連携がしやすく、地域と連携した学びを特色とするのであれば利点がある。
周辺の学習環境の状況（自学、自習スペース） ◇放課後の学習のための自習スペース等が使いやすい校地が望ましい。	○周辺の学習スペースを利用する高校生が所属する学校の実態や、今後の整備状況が不透明であるため、優位性の判断は難しい。
隣接施設（公共施設等）の状況 ◇学校外の施設での活動を想定し、近隣の施設が使いやすい校地が望ましい。	○周辺の隣接施設（公共施設等）を利用する高校生の所属する学校や今後の整備状況が不透明であるため、優位性の判断は難しい。

（その他意見）

○大規模校舎を前提とする従来の発想にとらわれず、企業との連携や施設の柔軟な活用などにより、小規模な校舎でも多様な学びを実現することも考えられる。

○地域ごとの学校配置や学校数のバランスについても考慮する必要がある。

（校地検討会議会まとめ）

◎校地選定に係る各検討項目について意見交換を行った結果、それぞれの校地に特徴や差異があることを確認した。

◎校地と学び・カリキュラムは密接に関係していることから、今後、学びの内容がより具体化された段階で、それらの実現に適した校地についても併せて検討していく必要がある。

◎一方で、総合的に見た場合には、校地検討部会として、どちらの校地が望ましいかについて結論を出すことは難しく、甲乙つけがたいとの意見で一致した。

◎校地検討部会としては、これまでの意見交換を通じて整理された各検討項目における意見や差異について、岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会及び県教育委員会へ報告することとし、最終的な校地の決定については、県教育委員会の判断に委ねる。

2 校地検討部会のまとめ

校地の決定は、「2　校地選定に係る視点と検討項目」に基づき、県教育委員会に委ねる。